

PPdicom200T PACSPLUS DICOM Gateway 200T

テキスト情報を用いてDICOMタグを自動生成 キャプチャボードやスイッチを使わずDICOM自動変換

PPdicom200Tは内視鏡、超音波診断装置、顕微鏡、眼底カメラ等の医療機器から撮影されたJPEG画像をDICOMに自動変換するアプリケーションです。変換されたDICOM医用画像をサーバで一元管理し、必要に応じ検索・閲覧することができます。



主要機能 >

- ▶ 操作がとても簡単で使いやすいです。
- ▶ JPEGデータの取り込みからDICOM変換後のサーバ転送まで全ての作業が全自動で行われます。
- ▶ CD/DVDにバックアップされている過去JPEG画像をDICOMファイルに自動変換させます。
- ▶ 手入力の必要がないことで入力ミスを防ぎます。
- ▶ ご使用中のPCにインストールすることで最小のコストで最大の効果を達成することができます。
- ▶ 一度使えばすぐに使いこなせるユーザーインターフェースを実現させました。
- ▶ キャプチャボードやスイッチを使わないことで費用対効果の高い高画質のDICOM画像が得られます。
- ▶ 情報の一括管理により、よりの確で迅速な診療が行えます。
- ▶ ルータ機能搭載で複数のDICOM ViewerやDICOM Serverに一括転送、または、DICOMプリントできます。

PPdicom200T PACSPLUS DICOM Gateway 200T

超音波、内視鏡、CD/DVD 画像をDICOM自動変換

医療現場において医療情報の共有に対する要求が高まっている今日、医療情報を病院内、または他病院間で共有するためには、医療情報をデータベース等に格納し、一元管理するシステムが必要になります。

使用手順 >

- 1 モダリティから送信されたJPEGファイル、テキストファイルを受信(CD/DVDのバックアップデータ対応)。
- 2 テキストファイルを用いてJPEGファイルをDICOMに自動変換。
- 3 DICOM変換画像を指定送信先へ自動でDICOM送信。
- 4 変換されたDICOMデータはPPW Viewerで検索・閲覧・一元管理可能です。(PPdicom200TとPPW Viewerは1台のパソコンにインストール可能です)

DICOMにはタグとよばれる情報があり、PPdicom200Tではテキストファイルを用いてタグ情報を生成します。生成されたDICOMファイルはDICOM ViewerやDICOM Serverにリアルタイムで格納され、一元管理されます。(本ソフトウェアは、各社のテキスト情報に合わせ追加開発が必要になる場合があります)

医療用ソフトウェアラインナップ

- ・ PACSPLUS Viewer (PPW) : 放射線科、神経外科、整形外科向け
- ・ PACSPLUS Focus (PPFocus) : 眼科向け
- ・ PACSPLUS Clinic (PPClinic) : クリニック向け
- ・ PACSPLUS Screen (PPScreen) : 集団検診向け

PPdicom200Tの最低動作環境

- ・ CPU : Pentium IV、3GHz以上
- ・ HDD : 80GB以上(SCSI推奨)
- ・ OS : Windows XP/Vista/7/8
- ・ メモリ : 1GB以上(Vistaは2GB以上)
- ・ LANカード : 100Mb NIC
- ・ モニター解像度 : 1280×1024以上、32bit Color 17"以上

PACSPLUSについてより詳しい情報は<http://www.pacsplus.co.jp>をご覧ください。

■開発元

株式会社PACSPLUS
〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-11-3八重洲YSビル8F
TEL 03-3553-1201(代表) 03-3523-5390(サービス)
FAX 03-3555-5122
MAIL sales@pacsplus.co.jp
URL <http://www.pacsplus.co.jp>

■お問い合わせ先

■「PACSPLUS」は株式会社PACSPLUSの登録商標です。



安全に関する注意
製品を安全にお使い頂くため、使用前に必ず「取り扱い説明書」をよくお読み下さい。
記載内容は機能向上のため予告なく変更する場合があります。最新版についてはお問い合わせ下さい。